

令和8年度
事業計画書

特別養護老人ホーム 簸の上園

目 次

1 事業運営計画-----	1P
2 実施施策の令和8年度行動計画-----	2P
(1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上-----	2P
(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり-----	4P
(3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立-----	7P
3 目標利用率-----	10P
4 固定資産物品購入計画-----	10P
5 修繕計画-----	10P
6 大規模修繕計画-----	10P

1 事業運営計画

事業の種類及び利用定員				
1	介護老人福祉施設	70名		
2	短期入所生活介護	10名		
運営方針				
1	介護老人福祉施設			
	(1) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。			
	(2) 介護サービスの管理、評価を常に行い、内容の充実とサービスの質の向上に努め、安全で安心なサービスを提供する。			
	(3) 地域との連携を強化し、地域の福祉ニーズに積極的に対応するように努める。			
	(4) 法令を遵守し、積極的な情報開示と情報提供による説明責任を果たす。			
	(5) 安定した経営基盤の確立とサービスを支える人材育成に努める。			
2	短期入所生活介護			
	(1) 利用者の意思及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスの提供に努める。			
	(2) 利用者が、可能な限り居宅において、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことができるよう支援する。			
	(3) 利用者の家族との関係を重視し、また、担当居宅介護支援事業者等関係機関との密接な関係に努める。			
	(4) 法令を遵守し、積極的な情報開示と情報提供による説明責任を果たす。			
職種別職員配置				
1	介護老人福祉施設・短期入所生活介護			
職種	正規職員	準職員	非常勤職員	合計
施設長	1	0	0	1
事務職員	2	1	0	3
栄養士	1	1	0	2
調理員	2	1	2.8	5.8
生活相談員	2	0	0	2
介護支援専門員	1	0	0	1
介護職員	15	15	8.4	38.4
看護職員	4	0	0.5	4.5
機能訓練指導員	1	0	0	1
夜間介護員	0	0	0	0
介護助手	0	0	0	0
警備従事者	0	0	1	1
用務員	0	0	1.5	1.5
合計	29	18	14.2	61.2
縣市町村等からの受託、補助事業等				

1 要介護認定調査業務（雲南市）
2 介護予防支援業務（雲南市地域包括支援センター）
3 雲南市生活管理指導短期宿泊事業
地域における公益的な取組
社会福祉法人等による利用者負担額軽減制度の利用による生活困窮者の支援
2 雲南市社会福祉法人連絡会において実施される取組への協力 <ul style="list-style-type: none"> ・「うんなん福祉・安全サポーター」活動 ・「くらしの安全を支える、身近でなんでも相談窓口」の設置
3 雲南市の福祉教育に係る取組
4 災害時における福祉避難所の開設

2 実施施策の令和8年度行動計画

(1) 利用者一人ひとりの生活を支えるサービスの質の向上

ア 個別ニーズに応じた専門的なケアの充実で、個々の利用者 QOL を高める。

実施施策	専門性を備えたサービスの提供
取組の方向性①	介護の基礎知識や技術を繰り返し学習する体制をつくり、一定のケアレベルを維持し技術の標準化を図る。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 介護基礎技術把握の評価を行い、技術の標準化に向け研修を計画的に実施し、技術の標準化を図る。 ・ 研修参加者を中心に各部署で復命を行い、学びを実践につなげる。里内での取組はチーフ会で定期的に振り返りを行い、専門職は取組内容に応じてフォローを行う。
取組の方向性②	効果的な研修方法・体制を整え、研修参加率を上げ、より多くの学びの場が持てるよう整備する。また専門研修への積極的な派遣をすすめ、見識を深め、介護のプロとして専門職とも意見交換できるスキルを養う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 動画視聴や里内研修などの方法を検討・実施し、より多くの職員の研修参加機会を設ける。 ・ 認知症ケアや看取り介護などの専門研修、対人援助職向けの研修へ積極的に派遣し、見識を深めスキルアップにつなげる。

実施施策	個別ケアの充実
取組の方向性①	LIFEのフィードバックデータ分析とケアプランへ反映する仕組みを定着させ、科学的根拠に基づくケアの提供につなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 眠りSCANとLIFEの個別データについては、専門職等が活用することで個別支援の充実につなげ、全体のLIFEデータは施設の傾向を把握し、施設の支援方法の見直しを行う。 ・ LIFEを活用し、利用者のできる能力に着目した。生活動作の改善につながる関りやアクティビティを提供する。

取組の方向性②	ICTの導入により、職員間の情報伝達と情報共有をスムーズに行い、「お待たせない介護」を実践する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> ICT活用推進チームを中心に情報伝達システム活用のルールを定め、職員間で差異なく使用でき情報伝達、共有ができるよう定着させる。
取組の方向性③	記録に関するチームを立ち上げ、記録の在り方、記録の仕方等について整理し、効率的な記録とケアプランと連動したケアの提供につながるよう体制を整える。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 記録の在り方や方法についてチームで整理し、ケアカルテの運用に合わせ記録方法の標準化を図る。 ケアプランに記載された内容に基づき正しく支援を行い、その内容を記録し情報共有を徹底する。

イ 安全安心で快適な暮らしを保障し、利用者の満足度を高める。

実施施策	利用者視点でのリスク管理体制の充実
取組の方向性①	サービスの質を見える化するための、定量的な評価指標を検討し、客観的に評価できる仕組みをつくる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 支援や取組について、データで示せる指標を整備し、半期ごとにその効果を見える化し確認する仕組みを検討する。 5S活動を継続する。また、安全点検ラウンドの点検項目を見直し、その効果を高める。
取組の方向性②	事故発生時の仕分けを、適切に行う仕組みを定着させ「防げる事故」を減らす。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 事故発生後の速やかな検証と対応についての流れを見える化し、適時に情報共有と対応ができるように徹底する。
取組の方向性③	人権・権利擁護に関する研修派遣や意識啓発を行い、自己覚知をすすめるとともに、互いに気づき、伝え合える職場風土をつくる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 上半期は「ほっとハート」。下半期はチームや部署ごとの「強みさがし」を設け、相手の存在やチームの強みを承認。共有する機会を持ち、振り返りや伝え合う風土を作る。 外部講師による人権・権利擁護に関する研修を開催し、学び直しの機会を設けることで職員の意識啓発につなげる。

実施施策	実効性のあるBCPへのブラッシュアップ
取組の方向性①	感染症対策については、年間通して職員の衛生教育を繰り返し実施し、発症時には初動対応がスムーズに行えるよう、発症想定シミュレーション訓練を効果的に計画し、マニュアルやBCPの見直しを行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に衛生行動の強化月間を設け、感染予防の意識を高める。また実践的な衛生教育を重ね習慣化させて定着を図る。

	<ul style="list-style-type: none"> 発生時に混乱しがちな初動対応がスムーズにできるよう、研修やシミュレーション訓練を行い、役割意識の向上と実行性を高める。
取組の方向性②	防災関係については、色々な場面の想定ができるよう多様な訓練内容を検討するとともに、指揮系統の確認と部署間連携に重点を置く内容を盛り込む。また、部署ごとにBCPの周知と、PDCAサイクルによる見直しを行い実効性の高い計画にする。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 防災訓練では、部署ごとに必要な連携体制や必要物品の確認を行い、防災意識を高める。また、非常用物品の整備や指揮系統等の整理により、実効性を高める。

ウ テクノロジーを活用した根拠のあるケアの提供で、サービスの質を高める。

実施施策	ICTの活用による科学的介護の実践
取組の方向性①	サービスの質の見える化に向けた指標を検討しサービスの質の定量評価を行う。また、導入するICT機器の使用ルール等を整理し、適切な運用を定着させる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 眠りSCAN、記録システムの使用ルールを定着させ、職員間で差異なくデータの確認と記録ができ生活リズムに合わせた支援を行う。
取組の方向性②	データに基づく情報共有とチームケアを推進することで、科学的根拠と経験値を融合させた質の高いケアを実現する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 担当者会議ごとに記録を含むデータを活かしたモニタリングを作成しケアの見直しに反映させることで、データ分析によるアセスメントを習慣化する。
取組の方向性③	LIFEのフィードバックデータ分析とケアプランへ反映する仕組みを定着させ、科学的根拠に基づくケアの提供につなげる。(再掲)
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 専門ケアチームにおいてもデータ分析を行い、専門ケアの充実につなげる。
取組の方向性④	データ分析に関する勉強会と実践を重ね、根拠に基づくケアの標準化を図る。また、生産性向上体制加算の上位区分の算定を検討する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 眠りSCANやLIFEなどの各種データを分析・活用するための勉強会を実施し、日常のケアに活かせる知識を習得する。

(2) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 採用ブランディングの強化と多様な人材活用で、優秀な人材を獲得する。

実施施策	多様な人材の確保と定着
取組の方向性①	広報戦略を見直し、ターゲットごとに効果的な魅力発信を検討・実施する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 広報誌等での日常の情報発信に加え、法人PRチームと連動しながら若年層・現役世代へ向けた施設の魅力発信の方策を具体化し実践する。

取組の方向性②	外国人材等の雇用を視野に、検討・準備をすすめておく。
行動計画	・ ICT の導入による業務整理を行い、勤務体制や介護助手等の導入について検討する。また、外国人材の雇用を視野に情報収集を行い、職員間で共有し具体化しておく。
取組の方向性③	市内の特養との連携を深め、職員交流や合同研修の機会を持ち、職員の資質や士気向上を図り、人材確保の一助とする。
行動計画	・ 雲南市内特養の意見交換会に参画し、意見交換会の内容をフィードバックし業務改善や広報等の参考にする。

実施施策	地域における企業価値の向上
取組の方向性①	サービスの質を見える化するための、定量的な評価指標を検討し、客観的に評価できる仕組みをつくる。(再掲)
行動計画	・ 客観的な指標を盛り込んだ「施設の暮らし」が見えるリーフレットを作成し関係機関に配布し入所申込や見学につなげる。 ・ アンケート等を実施して地域の声を聞き取り、簸の上園に求められる役割や地域に還元できる機能を整理し実行する。
取組の方向性②	広報戦略を見直し、施設の企業価値をさらに高めていく。
行動計画	・ 居宅支援事業所等の関係機関向けの通信「ひのかみ通信」に利用者の動向等を盛り込み、よりサービスがイメージできるようにする。また、関係機関向けの施設見学会を企画し相互連携の強化を図る。

イ キャリア形成の仕組みを整え、職員が成長を実感できることで個々のモチベーションを高める。

実施施策	実行力のある職員の育成
取組の方向性①	職階ごとに求められる姿、スキル、姿勢を示し、将来ありたい姿を具体化する。その中で個々のスキルや特性を考慮しつつ、挑戦したいことや高めてほしいスキルを示し目標設定する。
行動計画	・ 人事考課表をもとに各職階に求められる姿を共有する機会を持つ。 ・ 専門ケアチームや係の負担を経験年数に関わらず配置し、上位者のフォローを受けながら実践の中心として企画力・実行力を高める。
取組の方向性②	専門職も含め、目標を実践シート等に反映させ、多職種協働によるチームケアが充実する。
行動計画	・ 里の実践シートの作成に専門職も参画し、具体的な役割を持つことでチームケアの意識を高める。
取組の方向性③	園外での活動や地域との交流行事を経験することで、地域での役割意識や連帯感等を醸成し、経験値を高めるとともに見識を深める。
行動計画	・ 地域行事や交流センター活動等の外部機関との交流や活動に参画する機会を探り活動場面を拓げることで、施設職員としての役割を再認識し、主体的に行動できる人材を育成する。

ウ 風通しの良い職場風土づくりで、健康的で働きやすい職場環境を構築する。

実施施策	エンゲージメントを高める職場環境づくり
取組の方向性①	接遇目標「あいさつに続くひとこと思いやり」を徹底する。
行動計画	・ 「あいさつに続くひとこと思いやり」を徹底するため強化月間を設け、当たり前のことを丁寧に、些細な関わりこそ真剣に取り組む意識の定着を図る。
取組の方向性②	全体行事への積極的参画、介護分野以外の知見を深める研修・講座への積極的参加をすすめ、広い視野を養い介護に反映させる。
行動計画	・ 外部講師による、社会人・対人援助職に求められる「接遇」「コミュニケーション力」等に関する研修を開催し、振返る機会を持つとともに顧客志向を養う。
取組の方向性③	市内の特養との連携を深め、職員交流や合同研修の機会を持ち、職員の資質や士気向上を図る。(再掲)
行動計画	・ 園内の実践報告会に雲南市内特養の職員を招待し、自施設の取り組みの成果を伝える機会を設けることで取組への姿勢、士気を高める。

実施施策	セルフケアを促進するサポート体制の強化
取組の方向性①	ICT 機器の活用と業務整理による負担軽減と生産性の向上を図る。特に、負担感の大きい遅番・夜勤の負担軽減と記録の効率化を目指す。
行動計画	・ ICT 導入の定着にあたり、負担感の多い業務を洗い出し、里間の協力体制の構築と業務整理を行う。
取組の方向性②	メンタルヘルス、ハラスメントに関する研修を継続的に開催し、ストレスコーピングを身につけ、セルフケアに活かす。また、リフレッシュ企画を計画的にすすめる。
行動計画	・ 心身の健康を保つために、セルフケアの知識と大切さの学び直しにつながる研修や実践的な企画を行う。 ・ 夜勤と休を組み合わせ合わせた連続休暇や夜勤前の勤務日数の調整など、職員のリフレッシュにつながるように配慮する。

エ ICT の活用で業務の生産性を高め、職員の多様な働き方を実現する。

実施施策	ICT の適切な運用による生産性の向上
取組の方向性①	導入する ICT 機器の使用ルール等を整理し、適切な運用を定着させる。(再掲)
行動計画	・ ICT 機器の使用目的や取扱い方法を明確化し、職員が適切に活用できるルールを整理し、誰もが安心して活用できる体制を構築する。
取組の方向性②	ICT の導入による、負担軽減や業務の効率性を示しながらすすめる。また、新たな機器の検討や試行を行い、更なる生産性の向上に取り組む。

行 動 計 画	・ ICT 導入による業務改善や負担軽減について定期的に確認し、その実効性を高める。
取組の方向性③	職員の満足度、負担軽減等の定性評価を定期的に行い、有効性を検証し満足度の向上と業務改善につなげる。
行 動 計 画	・ 職員の満足度調査を行い定量評価と合わせて分析し、ICT の効果的な活用と業務改善の効果を検証する。

(3) 地域との共生と安定した経営基盤の確立

ア 地域の関係機関との連携を深め、地域の中で果たすべき役割を明確にする。

実 施 施 策	地域との連携の再構築
取組の方向性①	地域の一員であることを再認識し、地域行事や連携活動などに積極的に参画し、簸の上園の PR と地域の施設としての役割について発信する。
行 動 計 画	・ 海潮地区交流センターや民生児童委員との関りを中心に、地域活動への参画機会を探り具体化する。また、地域交流スペースの有効活用をすすめる。そのために地域での新たなニーズの情報収集を行う。
取組の方向性②	継続しているボランティア団体の活動内容について精査し、利用者との直接交流の場と地域との連携活動を拡大し活性化を図る。
行 動 計 画	・ 現在のボランティア団体の担当者と活動内容を整理する。また「地域交流の集い」を定期開催できるよう計画する。 ・ 家族ボランティアの日を設け一緒に活動してもらい、共に支援に係る関係をつくる。

実 施 施 策	福祉教育への参画と地域への還元
取組の方向性①	継続している各学校との関わりの継続に加え、施設の活動内容を広く発信する手段を検討し「信頼される地域資源」として認識してもらう取組を行い、幅広い世代へ活動の輪を広げる。
行 動 計 画	・ 福祉教育への取組を継続し施設の魅力を発信するとともに、職員の活躍の場や日々の振り返りにつなげる。また、新たな連携先を探り関係性をつくる。

イ 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実 施 施 策	利用率の回復と維持による収入の安定
取組の方向性①	事業所訪問や広報活動を幅広く継続的にを行い、潜在的なニーズの把握と入所対象へのアプローチをすすめる。また、事業所訪問等の結果を定量評価しアプローチの精度を高める。
行 動 計 画	・ 計画的な業所訪問を継続し、新しいニーズの開拓を行う。また、事業所訪問の分析を行い、効果的なアプローチを行う。

	<ul style="list-style-type: none"> 医療介護連携会議や圏域の意見交換会を通じて、圏域の特別養護老人ホームの情報収集を行い、圏域の状況を把握し利用者獲得に活かす。
取組の方向性②	相談・専門員室の業務を精査し、入退所や利用調整、空床利用を円滑かつ継続的に機能させる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 毎月、相談・専門員室会議を行い、事業所訪問の結果分析を行いスケジュールの確認等を行う。また相談・専門員室内での役割を整理し、円滑な入退所、短期利用、空床利用等につなげる。
取組の方向性③	強みである協力医療機関との連携をさらに強化し、受入体制の信頼性を高め入院期間の短縮につなげる。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケアの必要な利用者について、受入のガイドラインをもとに入所・利用できるよう医務と相談・専門室で受入態勢を整え、利用につなげる。 円滑な施設内療養ができるよう、協力医療機関との連携強化、嘱託医間の連携・協力体制を整理する。

実施施策	コスト意識の向上と経費の適正化
取組の方向性①	経営分析を踏まえ適正費用額の検討、見直しを行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 日用品や自己負担品の内容・運用方法について検討を行うとともに、施設内物品の整理を行う。
取組の方向性②	全職員がそれぞれの立場で経営状況を理解し、「ムリ・ムダ・ムラ」をなくす意識を浸透させる。また、委員会や専門ケアチーム、係の実践や活動の中で数字を意識した取組を行う。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 定期的に各チーム、係の代表が経営分析を把握、理解する機会を持ち、取組の成果と収入のつながりについて理解を深める。
取組の方向性③	購入物品や修理・修繕、個人購入物品に関しては、総務課と生活支援課が連携し、その必要性や選定を適切に見極めて支出の削減を図る
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 物品の発注プロセスの確認を行い、改善が必要な部分を見直す。

ウ 中長期的な視点をもった事業運営で、経営の持続性・透明性を高める。

実施施策	中長期的な視点に基づく施設整備
取組の方向性①	予定している大規模修繕を安全に進める。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 令和9年度に予定される大規模修繕が確実に実施できるよう、本部と連携しながら進める。
取組の方向性②	施設整備が整った際には居住費の見直しを検討し新たな収入確保の検討に向け協議する。
行動計画	<ul style="list-style-type: none"> 老朽化に伴う修繕を安全に進める。

実 施 策	経営状況の共有と事業運営の透明化
取組の方向性①	施設が遵守すべき法令について理解を深める機会をもち、それぞれの立場で経営や事業運営の一翼を担っている意識啓発を行う。
行 動 計 画	<ul style="list-style-type: none">施設運営について学ぶために、重要項説明書について理解する機会を持つ。

3 目標利用率

事業名	令和6年度実績	令和7年度見込	令和8年度目標
特別養護老人ホーム事業	97.4%	97.9%	98.0%
短期入所生活介護事業	96.2%	97.9%	97.0%

4 固定資産物品購入計画

(単位：千円)

項目	数量	執行見込額（税込）
電動ベッド(KA-N1721F)	3	988
車いすグレイスコアミニモ	2	347
ノートパソコン	2	308
キッチンボード	1	154
ガス給湯器	1	469
施設サーバ	1	833

5 修繕計画（大規模修繕を除く。）

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
該当なし	

6 大規模修繕計画

(単位：千円)

項目	執行見込額（税込）
該当なし	